

平成17年11月10日

秋田県庁 議会大会議室

私は、商工会議所等、外ではかなり色々な場所で「美の国あきた」という講演をしています。この講演を外の方にはお聞かせしているんですが、庁内の皆さんには聞いて頂いたことが無いものですから、もしかしたら皆さんの周りの方が、「部長がこんなことを言っていたよ、どう思う貴方は」と、こういうことがあるかもしれないので、是非一度、私がどんな話を外でしているのかということを知って頂いて、皆さんと共通認識を持ちたいというのが本日の主旨です。

私は、ご存知のとおり東京から来ているものですから、「美の国あきた～秋田の再発見～」ということで、秋田について率直に思っていることを、実はあちらこちらで話しています。

ポイントは、この別紙の資料の「百人百話」を読んで頂くとそこに殆ど網羅されているんですけども、秋田は非常に素晴らしい所だよということをまずは申し上げています。秋田には日本の原風景がある、秋田には日本人の故郷がある、忘れてしまったものが残っていると。秋田の中にいると、「秋田には何も無い」とか、そういったことを言われる方がおられるんですけども、それは嘘です。秋田には秋田の素晴らしい所、そして美しい所があり、そしてこれからも、この秋田の環境を残していかなければならないんだということを、ある意味自信を持って頂きたいということなんです。

そして、その時のそのポイントになるのが、この「環境」ということじゃないかということです。我々産業経済労働部では、経済の発展に向けて取り組んでいるんですけども、決して経済オンリー、経済一義主義ということではなくて、これからの世の中は「環境との調和」、サステナブルディベロップメントと言うんですけども、そういったものが大切で、それが秋田は出来る所だということを外でいろいろな場所で申し上げています。そしてその担い手となるのは、実は秋田県民であり、企業でありそして県庁の皆様であるということで、「環境」と「人」がこれからの秋田を支えるキーワードだということを申し上げたいと思う次第です。

私の経歴を知っておられる方はご存じかと思いますが、私は昔数学を勉強していました。数学の先生で藤原正彦という人がいるんですけど、今はお茶の水女子大学の教授なんですけれども、お父さんが新田次郎さんでして、藤原先生は数学者なんですけれども文才もあります。また、小川洋子さんという作家がいるんですけども、多分ベストセラーになったので読んだことがある方もおられるかと思うんですが、「博士の愛した方程式」という本を書かれています。その「博士の愛した方程式」という本を小川洋子さんが書く時に、この藤原正彦先生にいろいろ数学の話を知って書いたという経緯があるらしく

て、その藤原正彦先生と小川洋子さんが数学を巡る対話をしたのがこの本です。難しい数学の話は何も出てこないんですが、その本の書評が新聞にも載っていました。

この本の中では、いろんなことを言っているんですけども、「“美”とは感激である」と。「永遠の真理には“美しさ”がある」と。私は、この2点がこの本のポイントだったのではないかなと思っています。

永遠の真理、これはさっき申し上げた、秋田或いは地球においては「環境」というものに繋がるのではないかなと思います。他にも色々なことを書いてあるんですが、私は一番この本の中で面白いなと思ったのは、西洋人は負の数とか無理数とかを拒否して受け入れなかったけれども、インド人を始めとしてアジア人は非常に許容量があって、色々なことを受け入れる。これは一神教と多神教の違いもあるのではないかと。我々アジア人或いは日本人はいろんなものを受け入れて、広い目で物事を見る才能というか能力というか、こういったものがあるんじゃないかということを、この本は言っています。そういう意味においては、大きな目で物事を捉えるということが重要で、その大きな目で捉えた真理はある意味“美しい”ものである、というのがこの本のポイントなんです。

次にちょっとだけ数学の話をして。数学の本質は何かというと、解の公式という、昔中学校か高校の1年生で習ったと思うんですが、 $a^2 + b^2 + c = 0$  の  $a$  は  $2a$  分の  $-b \pm \dots$  だというような式を習ったと思うんですけども、これは式なんかどうでも良いんです。こんなのは今時コンピュータで計算すれば直ぐ出て来るので。

何が大切かということ、 $x^2 = -1$  というのを解くのに、普通の実数の世界でこの答えは無いんです。我々の生きている世界では無いんですね。この答え  $i$  は。ところが複素数というように拡張すれば、この答えが一般に出て来る。 $i = \sqrt{-1}$  というのを導入するんですけども、要すれば、数学って何だということ、計算ではなくて、大きくものを見ることなんですね。ものを拡張して見ることなんです。

次の例もそうなんですけれども、オイラーの公式という難しい公式があるんですけど、これを証明をするとこうなりますが、証明なんかどうでも良いんです。ある意味物事を拡張してみるとこの公式が成り立つんだと言うような、そういったことが大事だということですね。

もう一つ別の“美しい”ということについてお話しさせて頂くと、「人はなぜ“美しい”が分かるのか」という本があるんですけど、後でご関心の方は見て頂きたいんですが、この本の中ではこんな例が出て来きます。

フランスの印象派の批評家があります。その人達にある日、印象派以外の人が絵を書いて持って行きました。その批評はメチャクチャでした。素晴らしい絵だった、でも印象派にとっては全く価値のない絵だったという例が出て来るんですね、この本の中で。

何を言っているかということ、自分の基準が、ある枠の中に入ってしまった人には、枠の外にあるもの

は全く価値がない。でも、本当に“美しい”ものは何かといったようなことを枠を広げて見てみれば、別の見方が出来るということを書いていまして、美の評価というのは本来、実は誰が決めるものではなくて私、或いは皆さん一人ひとりが決めるもので、皆さんが“美しい”と思うもの、それこそが“美しい”ものなんだよと。ですので、もっと自由にものを考えて、自分の良いと思ったこと、“美しい”と思ったことを率直に表現して貰いたいなということです。

一方で外的な美の基準に縛られる人がある。印象派の人にとっては、印象派というある意味外的な基準に縛られてしまっていて、自由度が無くなっている。

さらに言えば、本来あるべきもの、あるべき姿であること、合理的なこと、自然であること、それに対して主に共通的に“美しい”ということを感じ、それが自然なんだということです。

おそらく、自然の美しさ或いは人の温かさ、そういったものこそ、多くの人は“美しさ”を感じるということではないかなと思います。

いろいろ書いてありますけれども、「“美しい” = 合理的である」。実はこれ数学に繋がるんですけども、合理的であること、本来の姿を持っていること。そういったものを合理的と感じるので、何かある枠の中で見えなくなってしまうのであれば、是非、枠を取り払って欲しいということはこの本では言っているということだと思っています。

まとめますと、人は“美しい”を感じる事が出来る。“美しい”内容は人によって異なるが、多くの人が共通的に感じる“美しさ”がある。合理的なもの、自然なもの、本来あるべき姿でそこにあるもの。

新しい方向を発見するには、より柔軟で開かれた、拡張した目を持たなければいけないんだということ。数学の本であったり、印象派の話であったり、色々な本がありますが、実は同じことを言っているのではないかなと思っている次第です。

そこで秋田なんですけど、秋田には秋田の“美しさ”があるんだと僕は信じています。1年半の短い経験なんですけれども、生活環境面では大変豊かですし、ありのままのもの、日本らしいもの、「原風景」という言葉を私はよく使いますが、そういったものが残っている。そして実は、これは東京には無いんですけれども、人としての人らしい生活がここにはある。まさに、ありのままの生活がここにある、だからこれは非常に良い所ですし、“美しい”所だと私は思っています。

ここに秋田の特徴をいろいろ書いてあります。これは皆さん思っていると思いますが、これら一つ一つが実は考えようによっては“美しい”ことに繋がっていているのではないかなと思います。秋田には何もないという人が良くおられますが、本当ですか？本当ですかね。外国に行ってみなさい。或いは東京に行ってみなさい。秋田には良いものが一杯有るんですよ。ここには、豊かな自然があるという一

つの例を挙げていますが、発想をちょっと変えると、見方をちょっと変えると、もっと言うと拡張された目で見ると、高い視線で見れば、物事は全然違って見えるんだと思うんですね。

秋田は著しい高齢化だと、困った困ったと言っている。それは現実でしょう。しかし、見方を変えれば、秋田の高齢化の進捗度は全国平均より 10 年早いと言われているんですが、10 年後は、日本はみんなそうなるんですよ。秋田はちょっと早いだけなんです。早いのはチャンスじゃないですか。秋田が問題を解決出来れば、それは日本の中のデファクトスタンダードになるんですよ。秋田の人は我が強い？秋田の人は芯があるんじゃないですか。自分の思っていることを一生懸命やれるんですよ。秋田は人口が少ない？秋田の人口密度は大体 1 人あたり 100 人前後なんですけど、フランスと同じでして、決して少なくないんですよ。人口は。ですので、少ない少ないとその状況の変化を見るのではなくて、客観的にその絶対値を見れば決して今の現状は悪いだけでは無いんです。秋田は豪雪地帯？だから綺麗な水があるんですよ。秋田は 60 年位、湯水がないんですね。こんな所無いんですよ。日本の中でも無いし、世界でも無い。世界の現状をご存知ですか？60 億人のうちの 10 億人はまともな水を飲んでいないんですよ。水があることだけでどんなに幸せか。

こういった世界の目で秋田を見て頂くと秋田は素晴らしい。この素晴らしいという心を皆さんと共有して、そしてこの素晴らしい所を是非、外に PR して益々伸ばして、自信を持って秋田を育てていこうじゃないかということをお願いしたいですね。

今、申し上げたとおりなんですけど、私としては是非一番 PR したいのは、秋田の「真心」です。でも、申し訳ないですけども、私が東京や名古屋の企業訪問をしていて、真っ先に言われることは、「秋田ってどんな所ですか？」です。みんな知らないんですよ。「雪がイッパイ降るんですよ。」と。でもそれだけじゃないでしょう。雪が降るから水がある、こんなに素晴らしい人がいる、これだけの良い環境がある。是非 PR していきたい。そしてその秋田の美しさを、多くの人と是非共有したい。これは県内じゃないですよ、県外の人と或いは世界の人と。その中で、秋田の自然と文化を後世に残したい。

私は北海道に旅行に行って、やっぱり秋田は良いなと思ったんです。北海道は素晴らしい自然があるんですが、如何せん人が少ない。秋田は自然があって人がいる、祭がある、文化がある、伝統がある。これは非常に重要なことですね。歴史と文化と自然。これを持っている。そして日本のありのままの姿が残っている。これが秋田の特徴じゃないかなと思います。

こんなことを考えながらまとめたのが、実は「工業振興アクションプラン」なんですね。産業経済政策課の若い人達にも、一番最初の頃に投げかけた問いがあるんですけども、「県庁に入る時に面接で何と言って入りましたか」と。或いは「20 年後に貴方が住みたい秋田はどういう秋田ですか」と。どちらの質問にでも結構ですのでちょっと考えてみて貰いたいんです。皆さん、県庁に入る時に、初心は秋田を良くしたいと思って入られたんですよ。それに、20 年後、皆さん秋田に住むんですよ。どうし

たいんですか。今のままで良いんですか。良い所は良いですよ、変えるところもあるでしょう。やるのは皆さんですよ。ただ、その時に本質を突かなければいけない。回り道をすると時間の無駄です。私の思っている本質は、「高齢化」と「環境」ではないかなと思います。この2つを、一方でブレイクスルーし、もう一方で守ることができれば素晴らしいですよ。そしてその為には、リスクを取ってチャレンジしよう、変えよう、改善しよう、それをやらなければ変わりませんよ、ということ、実は商工会議所等で企業の経営者に話しているんですね。

全部まとめますと、秋田の持っている方向は世界と同じ方向です。これは先程の「百人百話」の最後の方に英語の資料もちょっと付けたんですが、ニュースウィークの「リビングアナザライフ」という資料があるんですけども、この2ページ目に外人のお姉さんが何か読んでいるんですが、このお姉さんはイギリスの投資家で、ある意味今や最も注目されるビジネスウーマンですね。この人は何をやっているかという、これインドでお経を読んでいるんです。要すれば、人はどんなに最先端のことをやっても、最後は何か自分のあるべき姿、本来の姿、ルーツに戻りたいんだという一つの例ですね。モンゴルの話とか、他にも幾つかの例が載っているんですけども、外国だって同じなんです。日本だって同じです。沢山の人が自然の中に戻りたいと思っているし、健康に良い安全安心なものを食べたいと思っている。ですので是非、自信を持って下さい。自信を持って、ただ自信を持つだけでは自己満足なので、情報をあらゆる場面で発信して貰いたいと思うんですね。口コミ情報でも相当な効果がある。自信を持って、町で観光客に会った時でも、「どこか良い所ありますか」と聞かれたら、「何も無い」なんて絶対言わないでください。博物館でも良いじゃないですか、川反通りでも良いですよ。或いは八橋の石油掘っているポンプの所でも良いですよ。こんなものがあるんですよ、あんなものがあるんですよ、こんなものもあるんですよって言ってください。そして顧客ニーズを掴む為に、逆にこういった海外の話でも何でも、アンテナを広げて是非情報を掴んで頂きたいというのが、これが私が商工会議所等で話している話です。

私のお話は以上にさせて頂きたいと思います。どうもご静聴有難うございました。